

元総社落合遺跡

老人ホーム・デイサービス新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2014.7
前橋市教育委員会
有限会社毛野考古学研究所

例　言

- 1 本報告書は、老人ホーム・デイサービス新築工事に伴う元総社落合遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、事業者である金井繁氏より委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
- 3 発掘調査の要項は次の通りである。

発　掘　調　査　場　所：群馬県前橋市元総社町字落合721—1ほか
遺　跡　番　号：00817
遺　跡　略　称：25A170
発　掘　調　査　期　間：平成26年3月18日～平成26年3月28日
整理・報告書作成期間：平成26年4月2日～平成26年7月31日
発　掘　・　整　理　担　当　者：柴田洋孝（有限会社毛野考古学研究所）
- 4 本書の編集は柴田（有限会社毛野考古学研究所）が行った。原稿執筆はIを福田貫之（前橋市教育委員会）、他を柴田が担当した。
- 5 発掘調査・整理作業に関わった方々は以下の通りである。（50音順）

【発掘調査】赤尾嘉章・淺川正行・新井健吾・井上正三・清水勝・清水千代・松井昭光
【整理作業】仙波菜津美・高橋真弓・根本正子
- 6 発掘調査で出土した遺物及び、図面などの資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。
- 7 以下の諸氏・諸機関にはご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する。
- 8 金井繁 有限会社スミヤ測量 トーアコーポレーション

凡　例

- 1 遺構図の縮尺は挿図中にスケールを付してある。また、図中の方位北は座標北であり、座標値は日本測地系に基づいている。
- 2 座標値とは別に上野国分尼寺寺域確認調査に用いられた4mグリッドの名称を付し、近隣調査との整合性を取りやすくした。
- 3 遺物実測図の縮尺は1/3で掲載し、図中にスケールを付してある。なお、遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。
- 4 遺構および遺構設置の略称は、次の通りである。

H：住居跡 D：土坑
- 5 地理的環境・歴史的環境・周辺遺跡については「元総社蒼海遺跡群（28）」を参照されたい。

目　次

例言・凡例・目次・図版目次・表目次

I　調査に至る経緯	1	III　標準堆積土層	3
II　調査方針と経過	2	IV　遺構と遺物	3
1　調査方針	2	V　まとめ	8
2　調査経過	3	抄録・奥付	

図版目次

Fig. 1　調査区位置図	1	Fig. 5　土層断面図	5
Fig. 2　調査地点位置図	2	Fig. 6　出土遺物（1）	6
Fig. 3　基本層序	3	Fig. 7　出土遺物（2）	7
Fig. 4　調査区全体図	4		

表目次

Tab. 1　遺構一覧表	6	Tab. 3　出土遺物観察表（2）	8
Tab. 2　出土遺物観察表（1）	7		

I 調査に至る経緯

平成 25 年 11 月 8 日付けで開発者である金井 繁氏より老人ホーム等新築工事に伴う試掘調査依頼書が前橋市教育委員会に提出され、同年 12 月 20 日に試掘調査を実施し、平安時代の住居跡を確認した。試掘調査の結果を受け、埋蔵文化財の保護について協議を重ねたが、エレベーターピット箇所については保護が不可能であるため発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで合意を得た。前橋市教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになり、平成 26 年 3 月 7 日付けで開発者、民間調査組織、市教育委員会との間で発掘調査実施に関する協定書が締結され、同年 3 月 18 日から現地調査が開始された。



Fig. 1 調査区位置図（前橋市役所発行『前橋現形図 52-3』1/2,500）

II 調査方針と経過

1 調査方針

本発掘調査は老人ホーム・デイサービス新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査であり、調査面積は36 m²である。調査対象地は試掘調査によって遺構の有無が確認され、調査範囲の設定が行われた。調査を進めるにあたって、測量は日本測地系の公共座標に基づいて行われている。調査方法は、表土掘削→遺構確認・検出作業→遺構掘削作業→土層確認→遺構完掘の順で行い、写真撮影・遺構測量は進捗状況に合わせて適宜行った。表土除去は重機による掘削で、遺構確認面（IV層）まで掘り下げを行った。遺構確認作業にはジョレンを、遺構掘削には移植ゴテを使用し、出土遺物は可能な限りトータルステーションを使用して3次元計測をした後に取り上げを行った。検出された遺構は、平面測量・写真撮影による記録保存を行い、遺構平面図は1/20を基本として作成し、トータルステーションを使用して測量している。遺構写真は35 mm白黒フィルム、35 mmカラーリバーサルフィルムを使用して撮影し、補助として1,400万画素のコンパクトデジタルカメラを併用した。

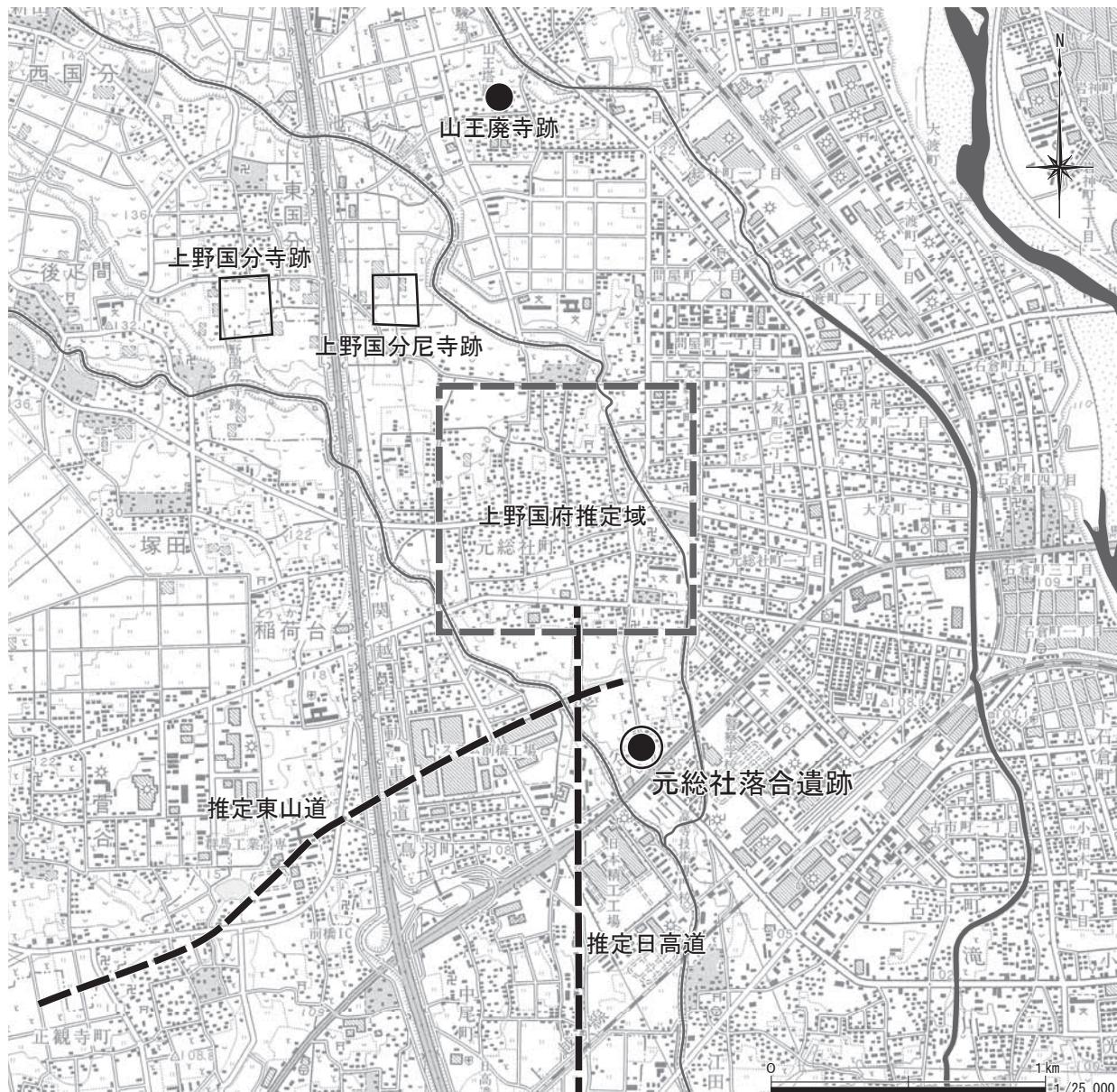


Fig. 2 調査地点位置図（国土地理院発行『前橋』1/25,000）

2 調査経過

現地での発掘調査は平成 26 年 3 月 18 日から平成 26 年 3 月 28 日まで、整理作業は平成 26 年 4 月 2 日から平成 26 年 7 月 31 日まで行った。経過は以下の通りである。

【発掘調査】平成 26 年 3 月 18 日：重機による表土除去開始。発掘器材搬入。遺構検出作業・各遺構の掘削を開始。
3 月 20 日：降雨のため現場における作業は中止となる。3 月 28 日：遺構掘削終了。完掘状況の写真撮影を行う。前橋市教育委員会の終了確認が行われる。発掘器材の撤収作業。現場における発掘調査は終了となる。

【整理作業】平成 26 年 4 月 2 日：遺構図面の修正作業・出土遺物の洗浄・注記作業を開始。5 月 1 日：遺物の分類・接合作業を開始。5 月 27 日：遺物実測作業を開始。6 月 6 日：報告書原稿作成、遺構図・遺物トレース・版組を開始。6 月 30 日：入稿・校正。7 月 24 日：印刷・製本。7 月 31 日：報告書刊行・納品。

III 標準堆積土層

調査区の北西隅において現地表面から約 1.5 m の深さまで標準堆積土層を確認した。全体的に黒褐色系統の堆積土で、遺構確認面として捉えた IV 層は総社砂層とみられる。総社砂層は、元総社蒼海遺跡群などの調査では 2.5 m 以上の堆積が確認されている。IV 層以下は黒色の堆積土で、縄文時代早期（約 11,000 年前）以前に堆積した湿地帯の前橋泥炭層であるとみられ、特に VII 層は粘性が強い。

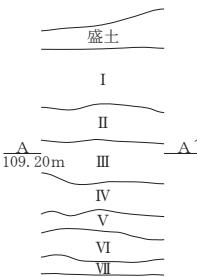


Fig. 3 基本層序 (S = 1/40)

IV 遺構と遺物

1 壇穴住居跡

壇穴住居跡とみられる遺構は複数確認されたが、本調査対象区は 36 m² と狭く、いずれの遺構プランも重複関係にあったため、土層観察において正確な遺構数や規模を捉えることを試みた。しかし、唯一カマドが確認された H - 2 号住居跡を除いて、そのほかの住居跡とみられる遺構では明確な規模や軸方位を捉えることは非常に困難を極めた。H - 4 ・ 6 号住居跡は東カマドを持つ住居跡と想定しているが、焼土が確認された箇所からは明確なカマド構築材などが検出されていないため、肯定的な要素に欠ける。H - 3 号住居跡は調査区東壁において、カマドとみられる焼土を含む堆積層や壁面の立ち上がりが確認できたが、遺構検出面と住居跡の床面がほぼ同じレベルであったため、平面では住居跡の形状を捉えることはできなかった。

出土遺物からいざれの住居跡も 8 ~ 9 世紀に帰属する住居跡であるとみられるが、一部の遺物を除いて出土遺物の接合関係は複雑であったため、遺構の把握と同様に遺物の正確な出土遺構を把握することも非常に困難であった。

2 土坑

土坑とみられる遺構は 5 基確認された。D - 1 号土坑は H - 1 号住居跡と重複しており、土層観察から H - 1 号住居跡より新しいと判断されるが、底面形状が平坦で、遺構壁面もほぼ垂直に立ち上がることから、D - 1 号土坑が住居跡である可能性も否定できない。D - 2 号土坑は覆土中層より土師器の壊が、D - 3 号土坑は覆土上層～下層にかけて散在するかたちで土師器の甕片が出土している。

3 表採遺物

縄文時代後期堀之内式の注口土器片が 1 点出土しているが、これ以外に縄文時代の遺物は確認されなかった。

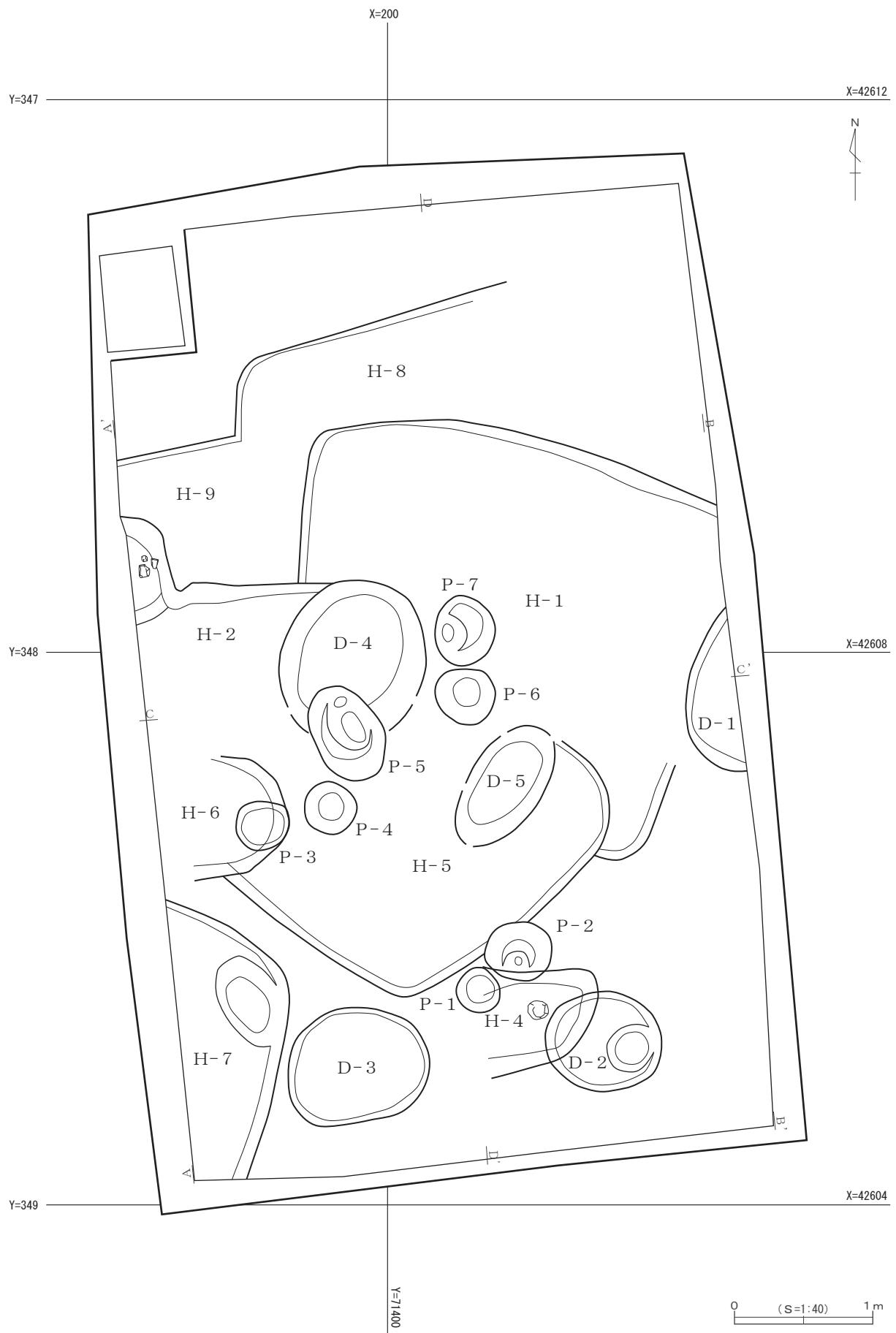


Fig. 4 調査区全体図

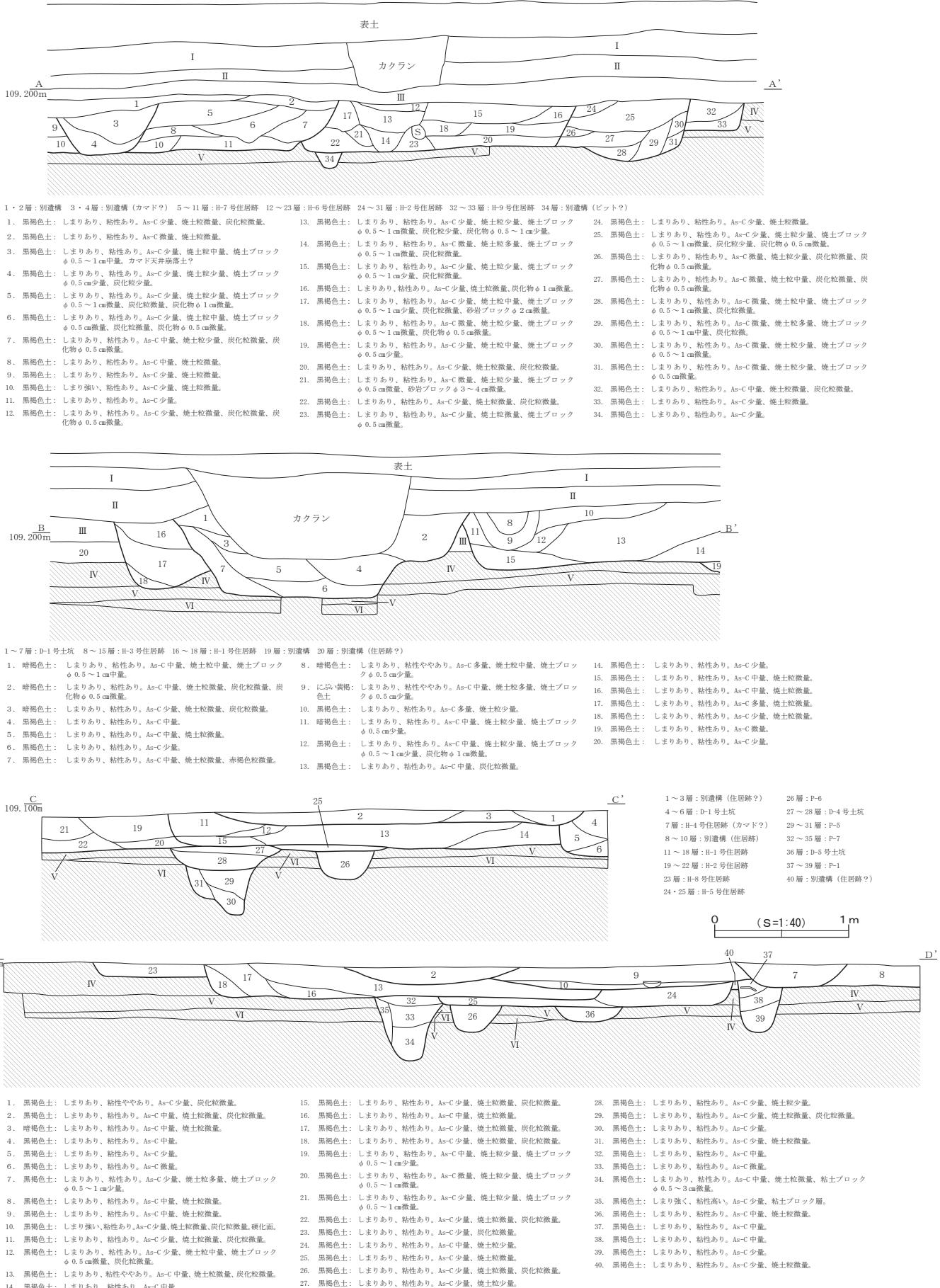


Fig. 5 土層断面図

Tab. 1 遺構一覧表

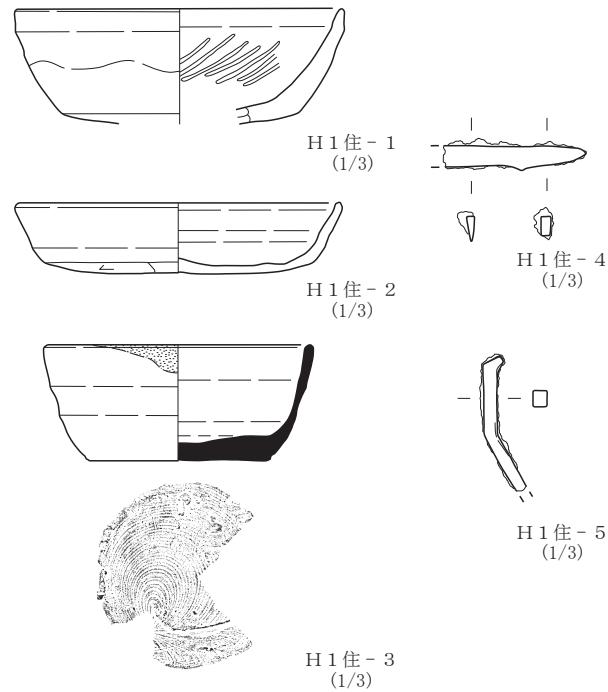
住居跡

遺構名	規模 (m)			方位	炉・カマド (m)		貯藏穴 (m)			出土遺物	帰属時期	備考
	長軸	短軸	深さ		全長	幅	長軸	短軸	深さ			
H - 1	3.1	2.65	0.18	N - 22° - W	—	—	—	—	—	土師器・須恵器・鉄製品	9 c 前	
H - 2	(1.45)	(1.0)	0.29	N - 6° - E	0.8	(0.32)	—	—	—	土師器・須恵器	8 c 後	
H - 3	(1.8)	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器・須恵器	9 c 前	
H - 4	—	—	—	—	(0.9)	0.82	—	—	—	土師器・須恵器	9 c 前	東カマド?
H - 5	2.2	(2.0)	0.19	N - 44° - E	—	—	—	—	—	土師器・須恵器	8 c 前	
H - 6	—	—	—	—	(0.65)	0.9	—	—	—	土師器・須恵器	8 c 後	東カマド?
H - 7	(1.7)	(1.2)	0.17	N - 16° - E	—	—	0.6	0.45	0.26	土師器	8 c ?	
H - 8	(1.06)	(0.88)	0.12	—	—	—	—	—	—	土師器・須恵器	8 c ?	
H - 9	(1.8)	(0.82)	0.15	—	—	—	—	—	—	土師器・須恵器	8 c ?	

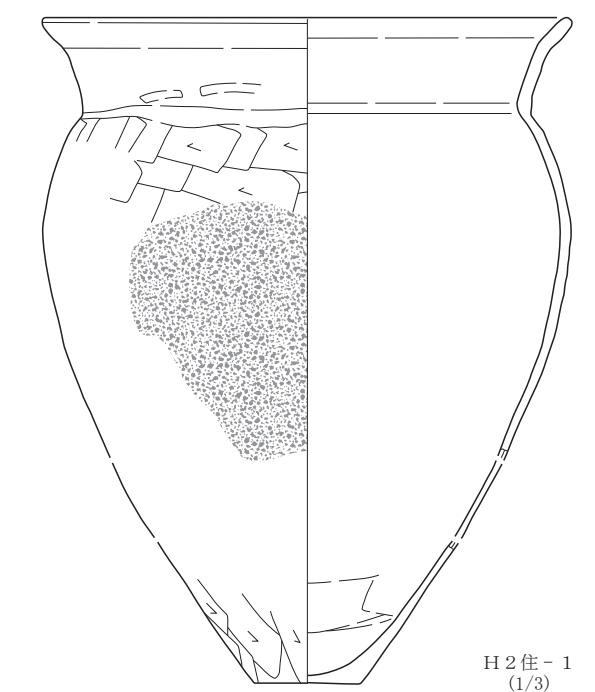
土坑

遺構名	規模 (m)			平面形状	長軸方位	出土遺物			帰属時期	備考
	長軸	短軸	深さ			全長	幅	長軸		
D - 1	(1.05)	(0.36)	0.1	円形	N - 20° - W	土師器	—	—	不明	
D - 2	0.86	0.73	0.23	円形	N - 80° - E	土師器	—	—	7 c 後～8 c 前	
D - 3	1.0	0.74	0.1	円形	N - 81° - W	土師器	—	—	8 後～9 c 前	
D - 4	(1.2)	1.0	0.2	円形	N - 14° - W	土師器	—	—	不明	
D - 5	(1.0)	0.53	0.1	楕円形	N - 32° - W	土師器・須恵器	—	—	8 c 後	

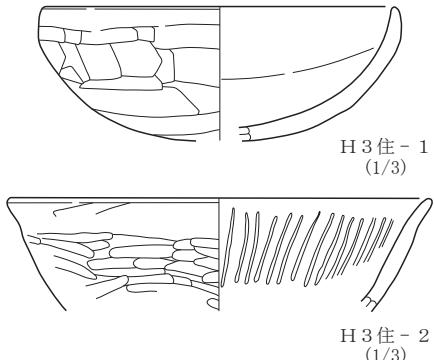
H - 1 号住居跡



H - 2 号住居跡



H - 3 号住居跡



H - 4 号住居跡

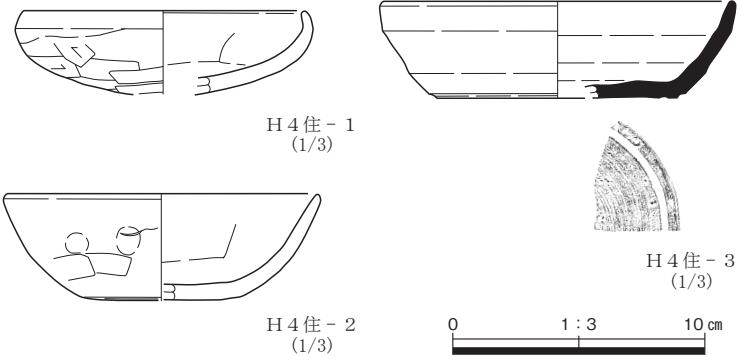


Fig. 6 出土遺物 (1)

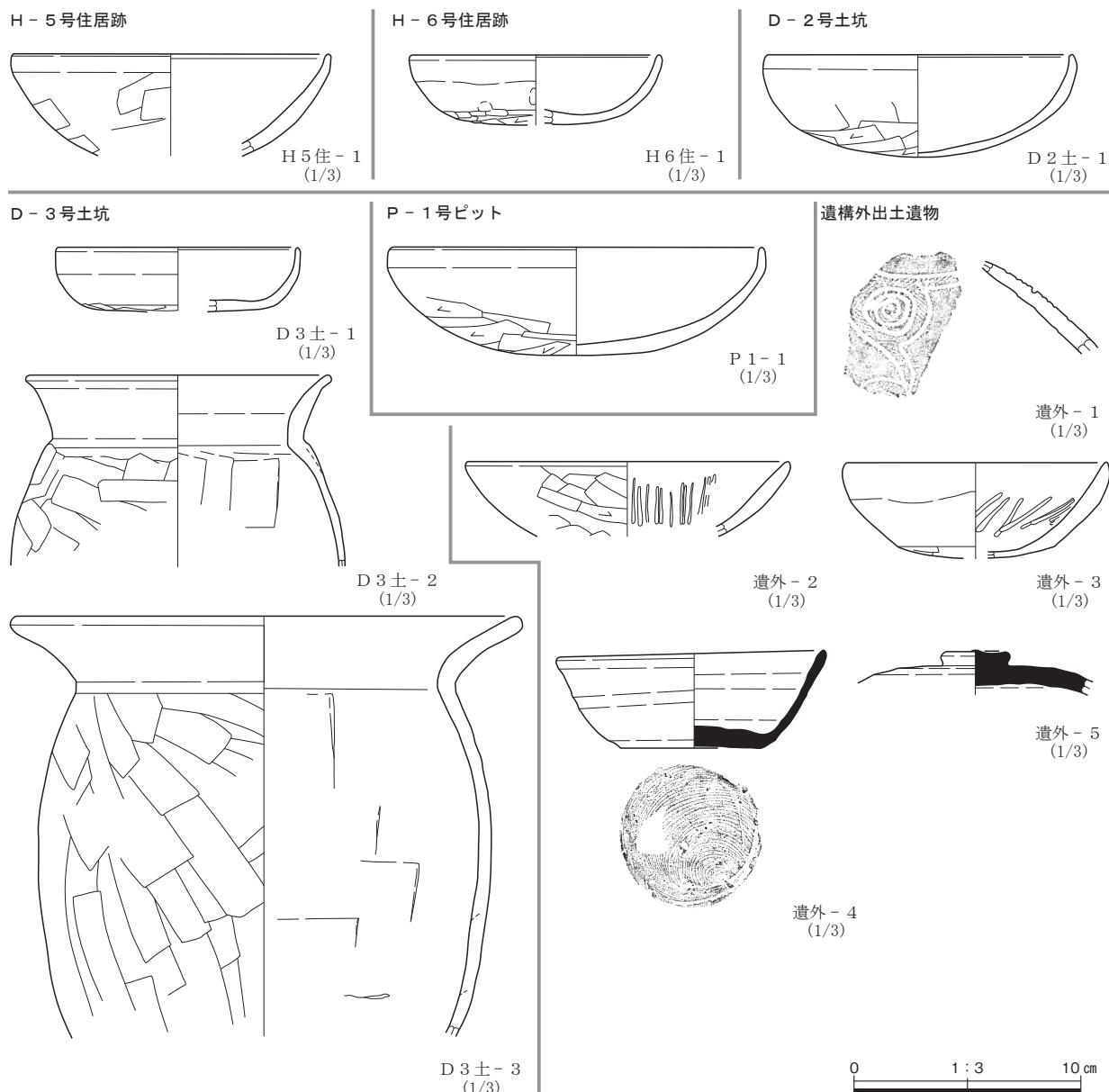


Fig. 7 出土遺物 (2)

Tab. 2 出土遺物観察表 (1)

遺構名	番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
H - 1	1	土師器 壊	口径 : (13.2) 器高 : <4.6	①酸化焰②明黄褐 ③石英・長石・黒色鉱物・赤色粒 ④口縁～底部 1/3	外面 : ナデ。 内面 : ナデ、放射状暗文。	
	2	土師器 壊	口径 : (13.0) 器高 : <2.8	①酸化焰②橙 ③石英・長石・角閃石 ④口縁～底部 1/3	外面 : ナデ、底部籠ケズリ。 内面 : ナデ。	
	3	須恵器 壊	口径 : (10.8) 底径 : 7.1 器高 : 4.6	①還元焰②灰 ③石英・白色粒④口縁～底部 1/2	外面 : 輪轍整形。底部回転糸切り。 内面 : 輪轍整形。	
	4	鉄製品 刀子	残存長 : 5.6 幅 0.8 厚さ : 0.4 重さ : 6.18g	／刃部～茎。		片闇
	5	鉄製品 釘	残存長 : 5.3 幅 0.6 厚さ : 0.6 重さ : 6.38g	／角釘。先端欠損。		
H - 2	1	土師器 瓶	口径 : (21.0) 底径 : (4.2) 器高 : (26.5)	①酸化焰②明赤褐 ③石英・白雲母・黒色鉱物 ④口縁～底部 1/5	外面 : 口縁部ヨコナデ。胴部～底部籠ケズリ。粘土付着。 内面 : 口縁部ヨコナデ。胴部籠ナデ。	
H - 3	1	土師器 壊	口径 : (14.2) 器高 : <5.3	①酸化焰②橙 ③石英・長石・赤色粒 ④口縁～底部 1/2	外面 : 口縁部ナデ、体部～底部籠ケズリ。 内面 : ナデ。	流れ込み
	2	土師器 壊	口径 : (17.0) 器高 : <4.5	①酸化焰②橙③石英・白色粒 ④口縁部片	外面 : 口縁部籠ケズリ後、ヨコナデ。体部籠ケズリ後、籠ミガキ。 内面 : ナデ、放射状暗文。	
H - 4	1	土師器 壊	口径 : (11.8) 器高 : <3.3	①酸化焰②橙 ③石英・黒色鉱物・赤色粒 ④口縁～底部 1/2	外面 : 口縁部ナデ、体部～底部籠ケズリ。 内面 : ナデ。	流れ込み

Tab. 3 出土遺物観察表（2）

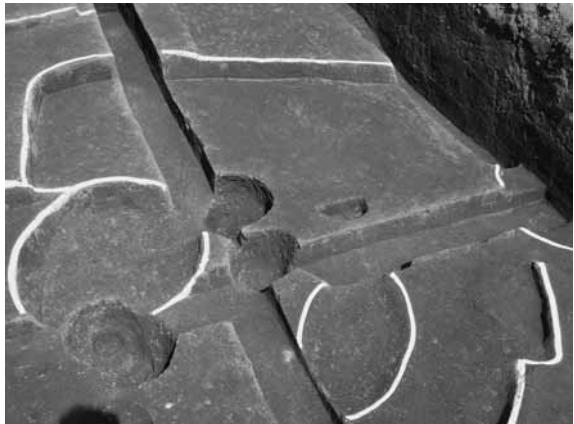
遺構名	番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
H - 4	2	土師器 壺	口径：(12.6) 器高：<4.2>	①酸化焰②褐③石英・白雲母 ④口縁～底部1/5	外面：口縁部ナデ、体部～底部窓ケズリ。指頭痕。 内面：ナデ。	
	3	須恵器 壺	口径：(14.4) 底径：(9.8) 器高：3.9	①還元焰②灰③白色粒 ④口縁～底部1/5	外面：轆轤整形。底部回転窓ケズリ。 内面：轆轤整形。	
H - 5	1	土師器 壺	口径：(14.2) 器高：<4.5>	①酸化焰②橙③白色粒・赤色粒 ④口縁～底部1/3	外面：口縁部ナデ、体部～底部窓ケズリ。 内面：ナデ。	
H - 6	1	土師器 壺	口径：(11.0) 器高：<3.1>	①酸化焰②橙③石英・黒色鉱物 ④口縁～底部1/3	外面：口縁部ナデ、体部～底部窓ケズリ。指頭痕。 内面：ナデ。	
D - 2	1	土師器 壺	口径：13.9 器高：4.5	①酸化焰②明赤褐 ③石英・白色粒・黒色鉱物 ④口縁～底部3/4	外面：口縁部ナデ、体部～底部窓ケズリ。 内面：ナデ。	
D - 3	1	土師器 壺	口径：10.6 器高：<2.8>	①酸化焰②明赤褐 ③石英・白雲母・黒色鉱物 ④口縁～底部1/2	外面：口縁部ナデ、底部窓ケズリ。 内面：ナデ。	
	2	土師器 甕	口径：(13.6) 器高：<8.4>	①酸化焰②明褐 ③石英・白色粒・黒色鉱物 ④口縁～胴部1/5	外面：口縁部横ナデ、胴部窓ケズリ。 内面：口縁部横ナデ、胴部窓ナデ。	
	3	土師器 甕	口径：(22.6) 器高：<18.5>	①酸化焰②明褐 ③石英・長石・白雲母・黒色鉱物 ④口縁～胴部1/3	外面：口縁部横ナデ、胴部窓ケズリ。 内面：口縁部横ナデ、胴部窓ナデ。	
P - 1	1	土師器 壺	口径：(16.8) 器高：<4.8>	①酸化焰②明褐 ③石英・黒色鉱物・赤色粒 ④口縁～底部1/2	外面：口縁部ナデ、体部～底部窓ケズリ。 内面：ナデ。	
遺構外	1	縄文土器 注口土器	器高：<4.0>	①酸化焰②にぶい黄橙 ③石英・長石・黒色鉱物 ④胴部片	外面：沈線で文様帯を区画し、帶縄文・渦巻文を施文。 内面：器面摩滅。	縄文時代後期 壺之内2式
	2	土師器 壺	口径：(14.2) 器高：<3.2>	①酸化焰②橙③白雲母・赤色粒 ④口縁部片	外面：口縁部ナデ、体部～底部窓ケズリ。 内面：ナデ、放射状暗文。	
	3	土師器 壺	口径：(11.4) 器高：<4.2>	①酸化焰②橙 ③石英・白色粒・赤色粒 ④口縁～底部1/3	外面：口縁部ナデ、底部窓ケズリ。 内面：ナデ、放射状暗文。	
	4	須恵器 壺	口径：11.6 底径：6.2 器高：4.3	①還元焰②黄灰③石英・白色粒 ④完形	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	
	5	須恵器 蓋	器高：<2.0>	①還元焰②黄灰③石英・長石 ④つまみ～天井部1/5	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	

V まとめ

これまでの元総社地区における発掘調査は上野国府推定域の内部、または国府推定域の北側における調査が多く、国府推定域の南側での発掘調査はほとんど行われていなかった。今回の発掘調査は国府推定域の南側にあたる地点だが、調査区の制約が大きく、遺跡の全体像を把握することは困難であった。出土した遺物から各住居跡の年代は概ね8～9世紀に帰属することが判明し、7世紀以前または10世紀以降の遺構・遺物は確認することができなかった。

これまでの元総社地区における国府推定域周辺の発掘調査では、国府造営期・盛行期（8～9世紀）を境に、場所によって各時期の住居跡の検出数に差がみられることがわかっている。国府域に近い場所では、国府の造営に伴って人々が退去させられているため、7世紀を区切りに8～9世紀の住居跡の検出数は極端に少なくなり、国府が衰退した10世紀になると再び人々が集落を営むといった状況が確認されている。逆に8・9世紀の住居跡が確認される場所は、国府造営に伴って退去させられた人々の集落であるともいえるが、国府自体に関係している人々（国府に従事する人々・耕作者・工人）の集落である可能性も否定できない。

今回の元総社落合遺跡の調査では、前述したように8～9世紀を中心とした住居跡が確認されている。これまでの調査事例に照らせば、落合遺跡周辺は国府造営期に国府域から退去させられてきた人々、もしくは国府に関係する人々の集落と解することができる。また、国府造営期以前の7世紀までの遺構や遺物が確認できなかったことや、国府が衰退した10世紀以降の遺物や遺構が確認されなかつたことから、落合遺跡周辺は8～9世紀の限られた時期に営まれた一時的な集落であったと考えられ、継続的に集落を営むには適していない場所であったことも窺える。しかし、今回の調査範囲から読み取ることはわずかであるため、今後の調査成果によって集落の様相が変わることは十分考えられる。



H - 1 号住居跡全景 (南西から)



H - 2 号住居跡全景 (南から)



H - 2 号住居跡カマド全景 (南から)



H - 4 号住居跡遺物出土状況 (南西から)



H - 7 号住居跡全景 (南から)



D - 2 号土坑全景 (南から)



D - 3 号土坑遺物出土状況 (南から)



基本層序 (東から)

P L . 2

H - 1号住居跡



H - 2号住居跡



H - 3号住居跡



H - 4号住居跡



H - 5号住居跡



H - 6号住居跡



D - 3号土坑



P - 1号ピット



遺構外出土遺物



抄 錄

フ リ ガ ナ	モトソウジャオチアイイセキ
書 名	元総社落合遺跡
副 書 名	老人ホーム・デイサービス新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	
編集者名	福田貫之 柴田洋孝
編集機関	有限会社毛野考古学研究所
編集機関所在地	〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 Tel 027-265-1804
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3-11-4 Tel 027-280-6511
発行年月日	西暦2014年7月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
もとそじやおちあいせき 元総社落合遺跡	ぐんまけんまえぼししもとそじやまち 群馬県前橋市元総社町 あざおちあい 字落合721-1ほか	10201	00817	36° 23' 08"	139° 01' 50"	2014.03.18 ～ 2014.03.28	36 m ²	老人ホーム デイサービス 新築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社落合遺跡	集落	奈良 平安	竪穴住居跡 土坑	9軒 5基	土師器 須恵器 鉄製品

元総社落合遺跡

老人ホーム・デイサービス新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成26年7月24日印刷

平成26年7月31日発行

編集 / 有限会社毛野考古学研究所

発行 / 前橋市教育委員会

前橋市総社町3-11-4

Tel 027-280-6511

印刷 / 朝日工業株式会社